

【香川県東かがわ市】 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 (合同部活動の推進に関する実証事業)

自治体名	香川県東かがわ市
担当課名	教育総務課
電話番号	0879-26-1237

※ 令和6年4月1日 担当課名が学校教育課から教育総務課に変更になっています。

1. 自治体の基本情報

基本情報

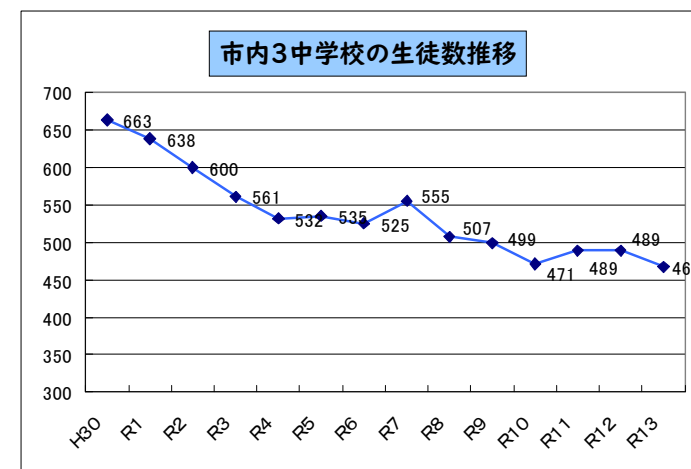
人口	28,492人	部活動数	30部活
公立中学校数	3校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
公立中学校生徒数	536人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

東かがわ市立3中学校の生徒数は、あわせて約540名（令和5年度4月現在）である。この5年間で約130人、小学校とあわせると220人余り減少しており、将来的に生徒数は減少し続ける見込みである（別表）。在籍生徒数の最も多い大川中学校（全校生徒約260人）と最も少ない引田中学校（全校生徒約110人）では、選択できる部活動の差は引田中学校の方が大川中学校より8少ない。3中学校合わせて約540人中、約9割の生徒が学校部活動（運動・文化含む）で活動をしている。ただし、生徒数は減少しているにもかかわらず、平成30年度以前と比較しても、部活動数の変化はほとんどない。

生徒数の減少に伴い、学校単位での活動に影響が出ている。特にチームで活動するサッカー部や軟式野球部、複数のパートによる活動が必要である吹奏楽部では影響が大きく、学校単位での活動を続けるためには、在籍生徒が少ない部から廃部という対応もやむを得ない状況である。

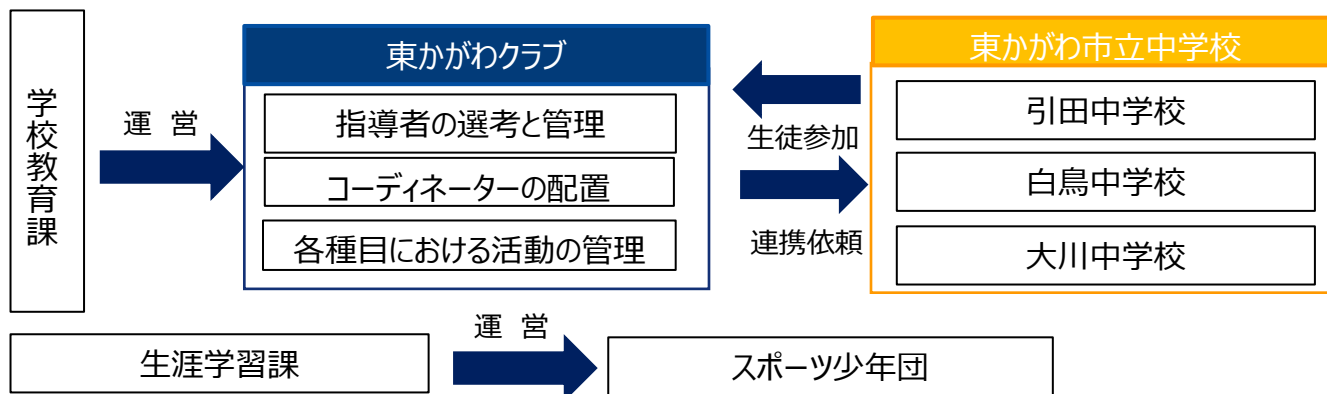
部活動顧問のうち、6割余りの教員は専門としない種別の顧問をしており、専門的な指導の不足が生じている。いくつかの学校に部活動指導員を配置しているが、教職員以外で継続的な指導が期待できる地域人材は少なく、すでにスポーツ少年団等の指導に関わっていたり、高齢化等の理由で、指導員の確保についてはままならない状況である。



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（学校教育課）

東かがわ市立中学校部活動すべての受け皿となる東かがわクラブを管理運営する。市立中学校と連携し、指導者の選考と管理、コーディネーターを配置し、各種目の活動を管理している。

● 首長部局（生涯学習課）

東かがわ市スポーツ少年団事務局を生涯学習課内に設置し、市スポーツ少年団活動を運営管理している。

年間の事業スケジュール

時期	計画事項	備考
4月	休日における地域スポーツクラブ活動の活動開始（軟式野球、男子バレーボール） 地域移行に向けた合同部活動の活動開始（女子バレーボール、女子バスケットボール、サッカー） 転任教員に対する説明会及び教師の兼業兼職にかかる説明会の実施	東かがわクラブ 東かがわ市立中学校 東かがわ市立小中学校
4月～	地域移行に係る保護者説明会の実施（剣道）	東かがわ市教育委員会
5月	スポーツ・文化活動の普及のためのレクリエーション的な活動の実施	東かがわクラブ
6月	休日における地域スポーツクラブ活動の活動開始（剣道）	東かがわクラブ
8月～	教職員向けアンケートの実施	東かがわ市教育委員会
10月	令和5年度大学生を対象とした地域クラブ補助指導員採用（継続含む）選考面接の実施	東かがわクラブ
12月	地域移行に向けた保護者懇談会の実施（女子バレーボール、女子バスケットボール、サッカー） 第1回教育振興審議会の開催（進捗状況の報告、推進計画起案等）	東かがわ市教育委員会
1月	第2回教育振興審議会の開催（推進計画案の検討、ガイドライン起案など）	東かがわ市教育委員会
2月	東かがわ市部活動地域移行推進計画の制定	東かがわ市教育委員会
3月	東かがわクラブ所属生徒・指導員等へのアンケート調査実施	東かがわ市教育委員会
4月	第3回教育振興審議会の開催（ガイドライン検討、成果報告、来年度に向けた検討課題）	東かがわ市教育委員会
5月	令和6年度新入生対象の体験教室実施（引田小学校）	東かがわクラブ
6月	事業完了報告書・成果報告書等の作成	東かがわ市教育委員会

2. 実証内容と成果

合同部活動の運営実績

参加校数	3校	実施した種目	サッカー、男子バレーボール、女子バレーボール、女子バスケットボール、軟式野球、剣道
合同部活動に取り組んだ部活動数	6部活		

主な取組例

▼活動概要

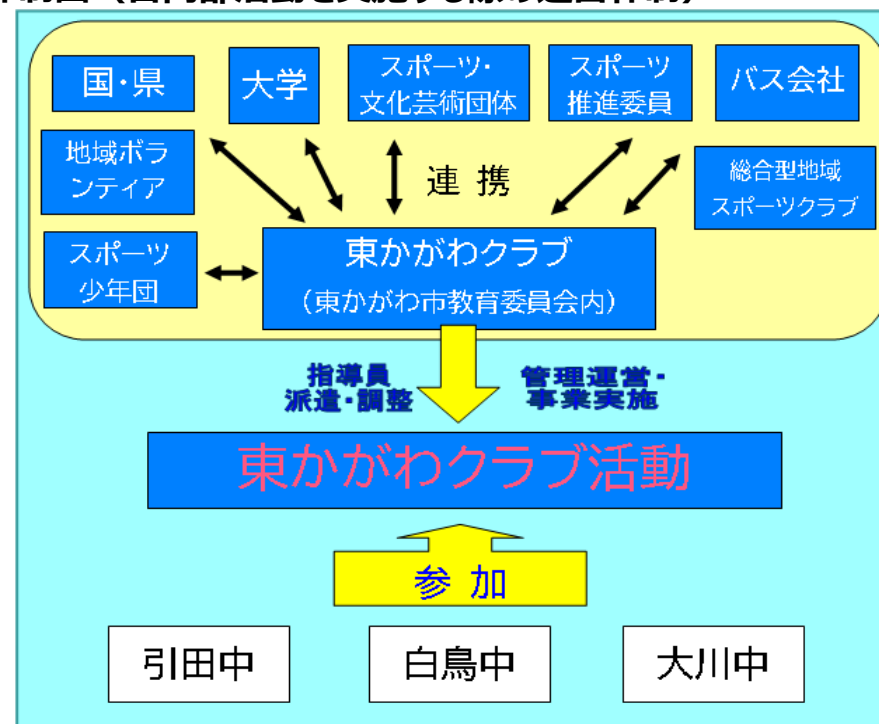
参加校名	大川中学校、白鳥中学校、引田中学校
実施した種目	男子バレーボール、軟式野球、剣道
1か月あたりの平均的な活動回数	月20回程度（平日は学校部活動として4回活動、休日は地域クラブ活動として1回）
顧問の属性	学校教職員、部活動指導員
指導者の主な属性	顧問 学校教職員、部活動指導員 クラブ指導員 兼職兼業教職員、部活動指導員、 地域指導者、大学生
活動場所	引田中学校、白鳥中学校、大川中学校
主な移動手段	スクールバス、徒歩、自転車
1人あたりの参加会費（年額）	8400円/年
1人あたりの保険料	生徒1人あたり：800円/年（スポーツ安全保険） 指導者1人あたり：1380円/年（スポーツ安全保険）

▼参加校における役割分担

● 大川中学校、白鳥中学校【拠点校】

- ・拠点校として専門的な指導のできる顧問を配置
- ・トラブル発生時の自校の生徒・保護者への各種対応
- ・地域移行に向けた協議会等への出席

▼運営体制図（合同部活動を実施する際の運営体制）



● 大川中学校・白鳥中学校・引田中学校【拠点校以外の学校】

- ・スクールバスの手配
- ・トラブル発生時の自校の生徒・保護者への各種対応
- ・地域移行に向けた協議会等への出席

2. 実証内容と成果

取組内容

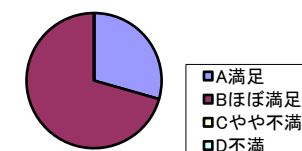
取組事項

- 関係団体・市区町村等との連絡調整等に関する取組
広域的な活動を行う総括コーディネーターを会計年度職員として採用する。総括コーディネーターは東かがわクラブ会長としてクラブ全体の管理を行うとともに、関係団体・各小中学校等との連絡調整・指導員に対する指導助言等を行う。

取組の成果

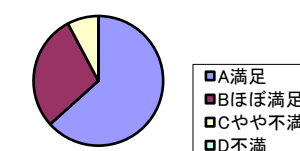
休日の地域移行が完了した種目の指導員及び地域移行に向けた合同活動を開始した種目の顧問へのアンケートの結果、東かがわクラブでの活動（3校合同での活動）について、17人中全員が「満足」もしくは「やや満足」と回答した。また、生徒へのアンケートの結果、90人中83人が「満足」もしくは「やや満足」と回答した。顧問からの意見としては、「補助指導員を含めた指導員の体制が整いつつある」「準備期間に合同で活動することで、生徒同士の面識があり、移行後のコミュニケーションもスムーズにできた」と建設的な意見が多かった。

1 本年度、東かがわクラブでの活動内容（合同活動・〇〇教室など）の満足度を教えてください。



顧問対象アンケートより

1 本年度、東かがわクラブでの活動内容（合同活動・〇〇教室など）の満足度を教えてください。



生徒対象アンケートより

特に工夫した事項

総括コーディネーターとして、元中学校校長を採用することで、市内小中学校との連携を効果的に行うことができた。在職時に地区中体連の会長として活動していた経験も、実務者間の連絡調整時にとっても効果的であった。市内中学校における全部活動の受け皿として「東かがわクラブ」を設置し、総括コーディネーターを会長、中学校長を副会長、指導主事を事務局長とすることで、学校と連携しながら、部活動の地域移行を段階的に行うことができています。種目ごとにコーディネーターを配置し、平日の学校部活動と休日の地域クラブ活動の連携における窓口として活動した。コーディネーター協議会を年間5回実施し（オンライン開催ふくむ）、種目間の情報共有についても積極的に行った。

今後の課題と対応方針

地域移行に係る学校と事務局間の連携については、会長と副会長である各中学校長間で頻繁に情報共有を行うことでスムーズに行うことができています。部活動の地域移行について、発生した課題に対して、丁寧に対応するとともに、移行状況を教職員及び生徒、保護者に正確に伝えることで、関係者の移行に関する不安を軽減したいと考えています。

2. 実証内容と成果

取組内容

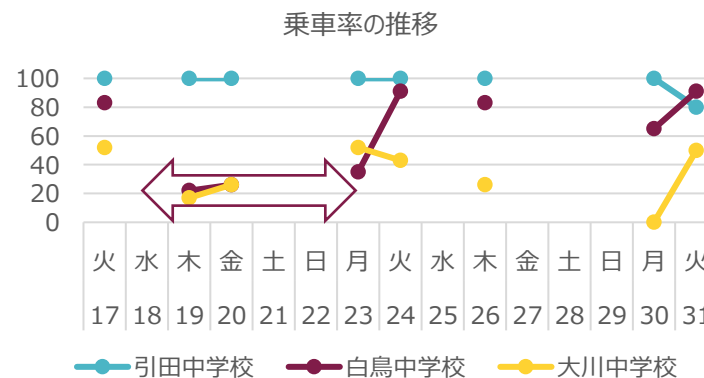
取組事項

関係団体・分野との連携強化
スクールバスを活用して、合同部活動における生徒の送迎を行う。

取組の成果

市内3中学校における合同活動を前提として、活動を計画していくと、スクールバスによる生徒送迎は必須となる。バスに乗車する生徒数が増えることが予想される。現在、種目ごとにバスを手配しているが、手配に係る負担軽減と効率的な送迎方法の確立のために、平日における市内3中学校間の巡回バス実証実験を10月下旬に実施した。

実証実験の結果、生徒会専門委員会などの放課後活動や宿泊学習などの学校行事など、放課後にイレギュラーが発生したときの対応や生徒の乗降者確認など多くの課題が分かった。



特に工夫した事項

平日におけるスクールバスの有効利用に関しては、下校する小学生を送迎した後のバスを有効利用するために、事前の準備段階において、小中学校のバス担当者で協議する場をもったことで、スムーズな連携を行うことができた。市内小中学校がすべて小中一貫校であることも、連携をスムーズにできた理由の1つであった。

実証実験においては、市内小中学校長会に対して事前の調査依頼、事後報告を行った。調査によって把握できた課題の1つである「放課後における生徒の活動時間確保」のために、市内3小中学校が時程変更等協力をしてくれた。

今後の課題と対応方針

時程による生徒送迎の方法を確立するために、まずは生徒の乗降者確認の方法を検討していく。ICTを活用した乗降者確認システムの導入についても、前向きに検討していきたい。

バスを利用する学校の生徒と拠点校の生徒間における移動にかかる負担を軽減するための活動方法について検討を行う。

2. 実証内容と成果

取組内容

取組事項

- ・ レクリエーション的活動の取り組み
学校部活動の所属に関わらない、スポーツ・文化活動体験教室をレクリエーション的な活動として実施する。
- ・ 世代間交流に関する取組
東かがわ市内小学校土曜日授業に指導員を派遣し、体験教室を実施する。市内にある県立高校にて出前授業を行う。

取組の成果

市内小学校土曜日授業で出前授業を行い、東かがわクラブ指導員が小学生対象に体験教室を実施した。中学生も参加する計画だったが、定期試験期間であったため、指導員のみで児童を指導した。

市内にある県立三本松高校の総合的な探究の時間に、外部講師として参加し、班別活動の高校生と「東かがわ市立中学校部活動の地域移行」というテーマでディスカッションを実施し、少子化が加速する中における部活動の在り方について、一緒に考えた。

☆交流会の感想・考えたこと・学んだことなどをまとめよう。

今回の交流会では、東かがわ市3校の今後の繋がりについて深く考えることができた。人口が減っている東かがわ市の中学校、だからこその3校の合同部活動は、「東かがわ市」としての団結を強められるほか、お互いに教え合える機会が増えるというメリットは魅力があるので、本当に素晴らしい活動だと思える。私も、三本松高校の部活の良さや発信して、東かがわ市の中学生・保護者、地域の方に向けて、三本松高校にも繋がれるようにできることから取り組んでいきたい。

高校生のまとめより

特に工夫した事項

東かがわクラブで新しく機会を設けるのではなく、これまで東かがわ市で実施していた取り組みに東かがわクラブの指導員や事務局長がかかわることで、小学生や高校生だけでなく、地域コーディネーターや高校の先生方に対しても、東かがわ市立中学校部活動の地域移行について伝えることができる機会になった。

今後の課題と対応方針

市内3小学校の土曜日授業における出前授業の機会を増やし、小学生に幅広くスポーツ・文化活動に触れ合う機会を確保するとともに、中学生が、在籍する小中学校区以外の小学生とも触れ合う機会も意図的につくる。

県立三本松高校には、市内3中学校の卒業生が多く所属しており、生徒会活動や部活動で連携し、中学生と高校生が相互に学び合いながら、魅力的なまちづくりに参画していくような関係を築いていきたいと考えている。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

小さなまちでもいろんな活動がしたい！
子どもたちの「やる気」を大切にしたい！

東かがわ市教育委員会

どうする部活動!はじまる地域クラブ活動!

学校単位にとらわれず、学校と地域が協働する活動をめざして

合同練習・合同チーム



事務局長
(当番は市教委内に設置)

継続コーディネーター

公共スポーツ施設

月 火 水 木 金 土 日

学校部活動 学校部活動 (休み) 学校部活動 学校部活動

東かがわクラブ活動 (土日いずれか1日)

学校部活動

クラブイベント (月1回程度)

事務局長から派遣された指導員が指導します。参加費は当面、市が補助します。軟式野球・男子バレーボール等から段階的に移行します。

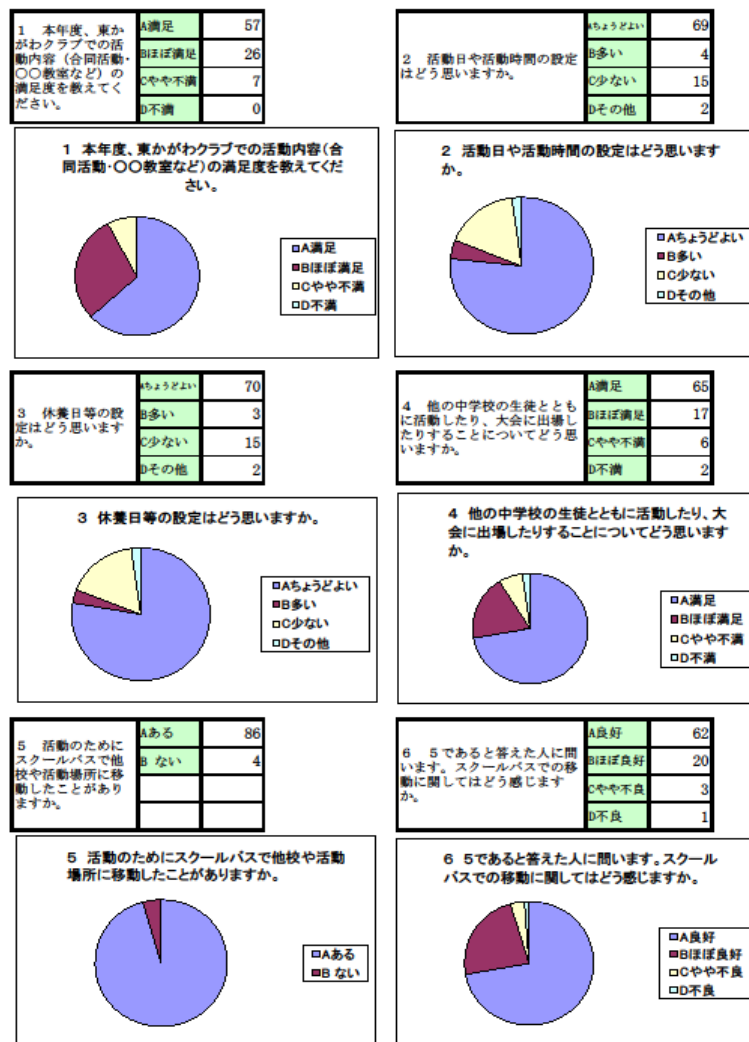
今までと同様に学校の教員が指導しますが、令和7年度末までの地域移行をめざしています。

事務局長が運営するレクリエーション的な活動です。普段所属している部活動の種目にとらわれず参加できます。参加について特別な申し込みは不要です。中学生だけでなく小学生等の参加も考えています。指導者は、事務局長から派遣し、当面、参加費は市が補助します。バスケットボール、美術など土日に学校部活動で活動中の種目も実施しています。

※リーフレットに記載されている内容は、国の動向などにより変更する場合があります
(詳細は東かがわ市HPにて)

【東かがわ市立中学校部活動の地域移行リーフレット】

令和5年度 東かがわクラブでの活動に関するアンケート集計グラフ（生徒用） 2024.1実施



【東かがわクラブ活動に参加した生徒へのアンケート】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【3中学校による合同活動のようす（軟式野球）】



【県立三本松高校における出前授業の様子】



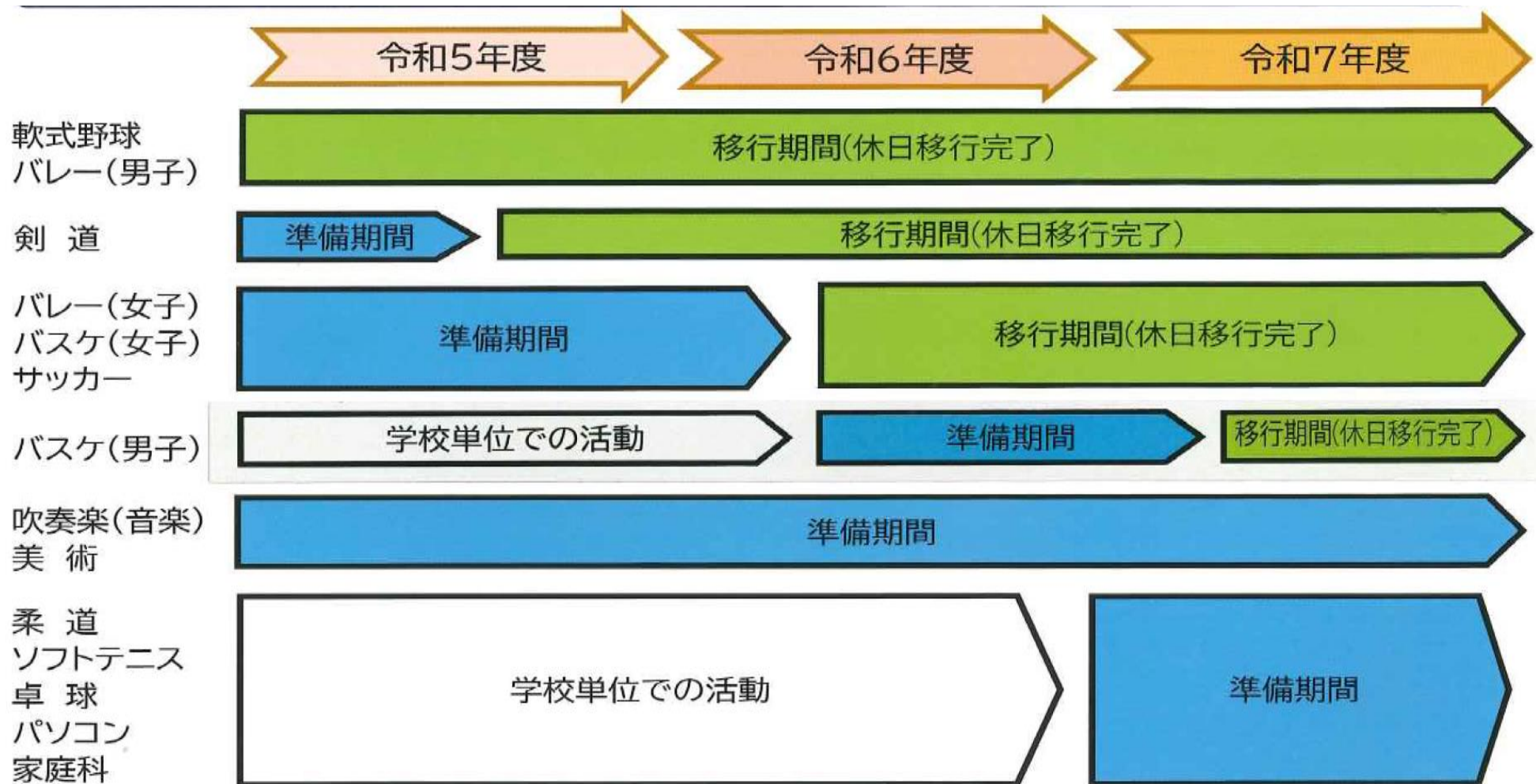
【レクリエーション的な活動（剣道教室）のようす】



【スクールバスによる生徒送迎のようす】

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ



**【香川県善通寺市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（合同部活動の推進に関する実証事業）**

自治体名	香川県善通寺市
担当課名	教育委員会 教育総務課
電話番号	0877-63-6327

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	32,927人	部活動数	20部活
公立中学校数	2校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置予定あり
公立中学校生徒数	673人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

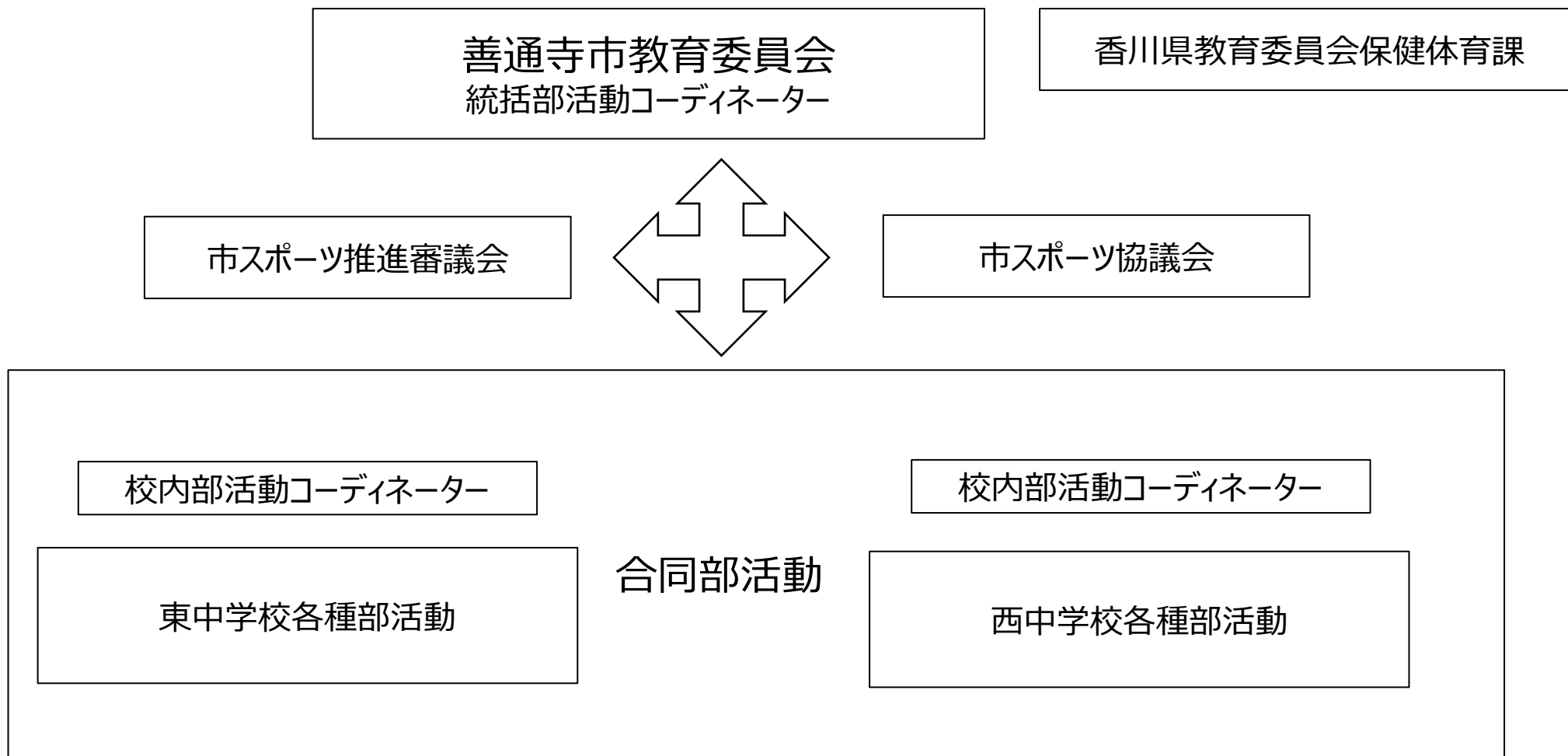
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

善通寺市は、東西2校の中学校が設置されている。国の施策である中学校部活動の地域移行に向けて、まずは2校の合同部活動に取り組むこととした。両中学校の距離は約500mと近く、両中学校の施設、市民体育館をはじめとする市の体育施設や近隣小学校体育館にも協力を得て活動をしている。また、教育委員会、スポーツ推進審議会、スポーツ協会総会において、合同部活動実施について説明をして理解を求めるとともに議会においても担当課長より説明をし、了承された。5年度当初より合同部活動に取り組み、両校教員の協力による負担軽減、指導員の配置による負担軽減などがみられるものの、今後の指導員の確保、育成、人件費の財源などの課題もはっきりとし、今後の活動に活かしていきたい。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼事業実施体制図（市区町村と関係団体における推進体制図）



2. 実証内容と成果

年間の事業スケジュール

8. 事業スケジュール		
時期	計画事項	備考
4月上旬	新しく赴任した先生方に合同部活動について説明する。	
	(部活動再開後)：市部活動コーディネーターと学校部活動担当(コーディネーター)による打ち合わせを行う。	
5月	地域の公民館(隣保館長)による講話研修	
	市コーディネーターと学校の担当が連絡を取り合いながら、運営上の課題を収集し、対応策を検討。(学校の担当は顧問から情報を収集しておく)	
6月	保護者アンケートの実施	
	スポーツ推進審議会	
7月	スポーツ協会	
8月	香川県教育委員会保健体育課との意見交換	
9月	市コーディネーターと学校の担当が連絡を取り合いながら、運営上の課題を収集し、対応策を検討。(学校の担当は顧問から情報を収集しておく)	
10月	東西中学校の指導者並びに外部指導者部活動指導員の研修	
11月	保護者アンケートの実施	
12月	市コーディネーターと学校の担当が連絡を取り合いながら、運営上の課題を収集し、対応策を検討。(学校の担当は顧問から情報を収集しておく)	
1月	香川県教育委員会保健体育課との意見交換	
2月	成果報告、来年度に向けた検討課題	
3月	事業完了報告書・成果報告書等の作成	

2. 実証内容と成果

合同部活動の運営実績

参加校数	2校	実施した種目	サッカー、男子バスケットボール、女子バスケットボール、野球、男子バレーボール、女子バレーボール、男子卓球、女子卓球、バドミントン、ソフトテニス、陸上競技、水泳、ソフトボール、柔道、剣道、相撲、吹奏楽、茶華道、ボランティア
合同部活動に取り組んだ部活動数	20部活		

主な取組例

▼活動概要

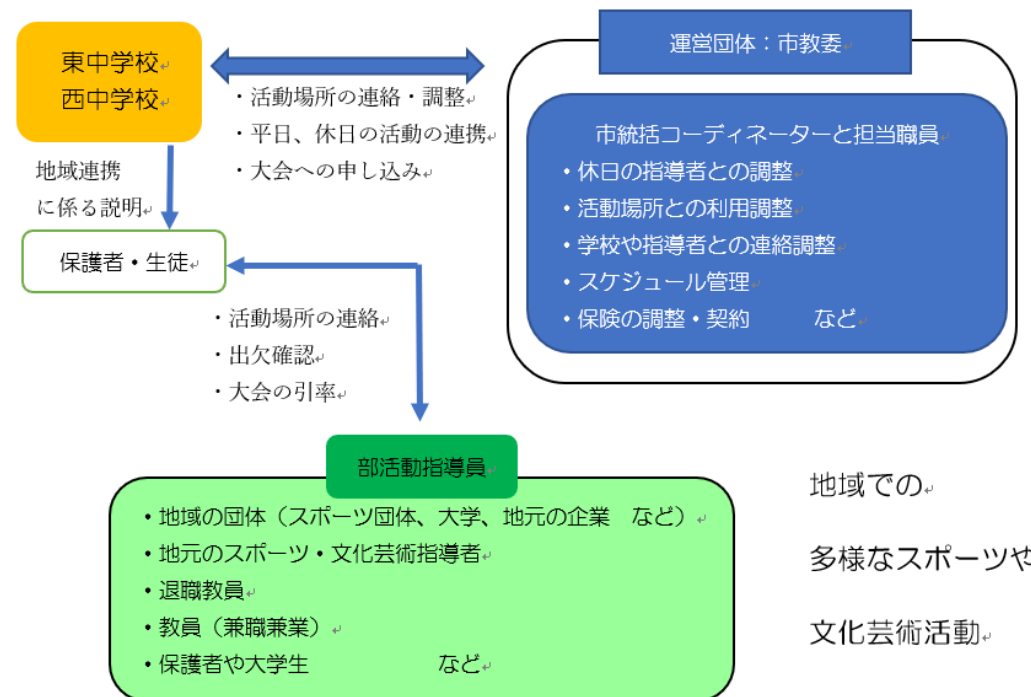
参加校名	東中学校、西中学校
実施した種目	柔道
1か月あたりの平均的な活動回数	月20回程度（平日4回、休日1回）
顧問の属性	東西中学校の教師が顧問を担当
指導者の主な属性	顧問（教師技術指導）地域の部活動指導員
活動場所	市立武道場
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費（年額）	6000円/年
1人あたりの保険料	生徒1人あたり0円/年（日本スポーツ振興センター給付） 指導者1人あたり0円/年（市公務災害補償）

▼参加校における役割分担

●東・西中学校

- ・顧問教師の配置し、自校の生徒の保険加入手続き
- ・トラブル発生時の自校の生徒・保護者への各種対応
- ・参加校間の定期的な連絡会等の開催・出席

▼運営体制図（合同部活動を実施する際の運営体制）



2. 実証内容と成果

取組内容

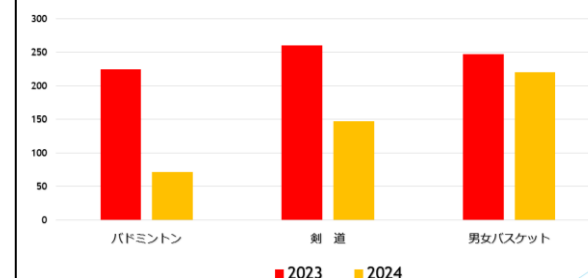
取組事項

東西2校のすべての部活動による合同部活動
中学校施設、市のスポーツ施設、小学校の体育館を利用しての活動

取組の成果

4月の両校教員に説明会を持ち、その段階での不安や課題を聞き取り解決に向けて取り組んだ。教員に向けてのアンケートを6月、12月の2回実施した結果、教員、生徒ともに理解が深まり、協力して活動できるようになった。保護者に対するアンケートでも、学校部活動の意義や地域の指導者への期待も大きかった。部活動指導員が配置できている部活動に関しては、教員の活動時間の削減がみられ、配置できていなくても、両校顧問の協力で削減された例も見られた。

部活動指導時間の比較



特に工夫した事項

5年度からの活動に備えて、4年度中に活動場所を調整準備し、特に、市のスポーツ施設の使用料減免措置を行った。
部活動指導員に対して、市独自で研修会を持ち、受講終了証を配付した。

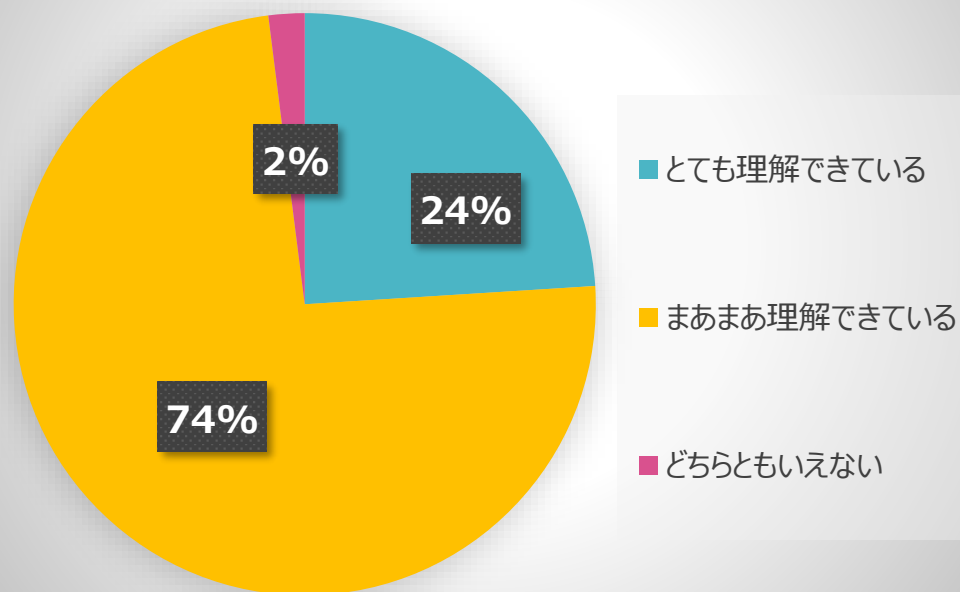
今後の課題と対応方針

部活動指導員の確保育成については、県の人材バンクだけでなく、善通寺市として、市のスポーツ協会の協力や教員の兼職兼業手続きなどを 実施していきたい。その際、教員経験、専門的指導力などを見極めていきたい。

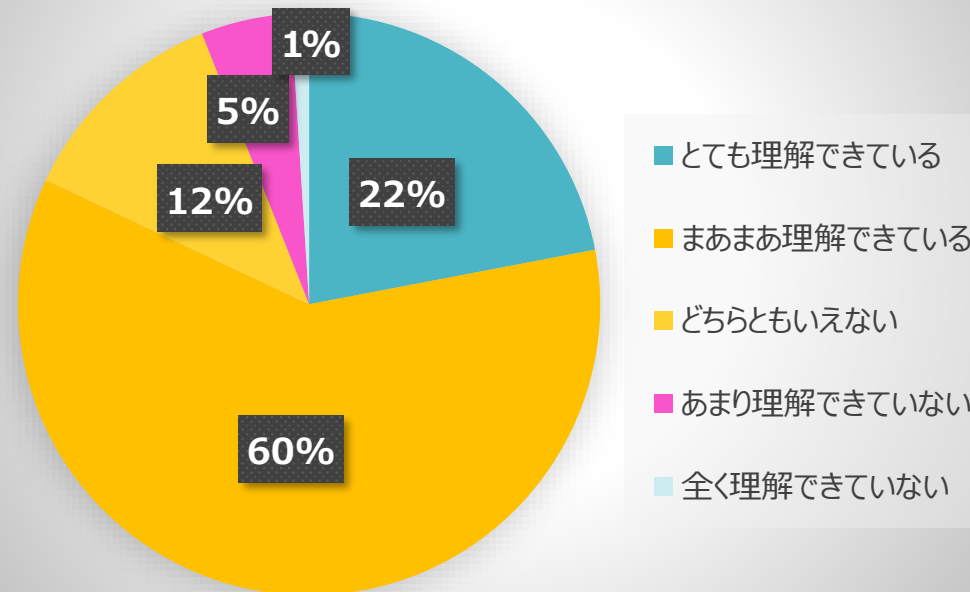
2. 実証内容と成果

令和5年6月に行ったアンケート結果について ①

教員



保護者



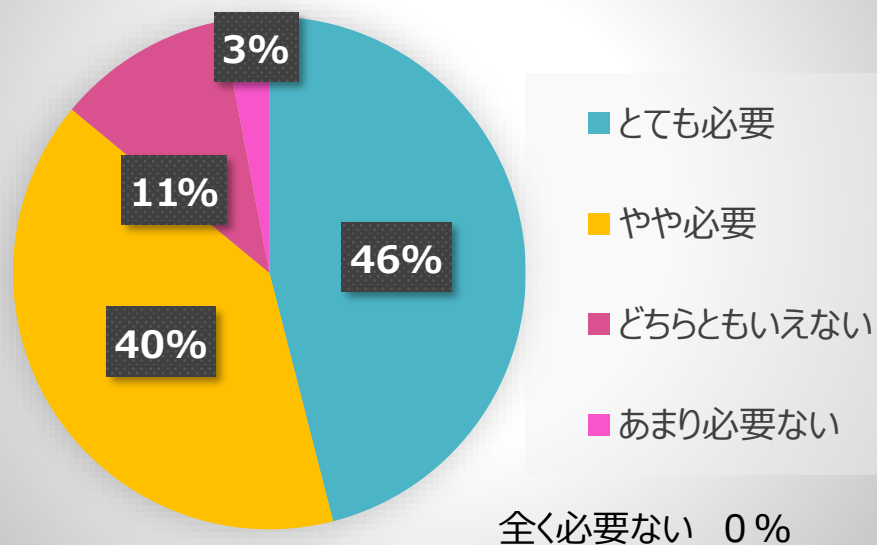
【問：部活動の地域移行の趣旨は理解できていますか。】

○部活動地域移行の趣旨については、教員・保護者ともにおおむね理解していることが分かる。

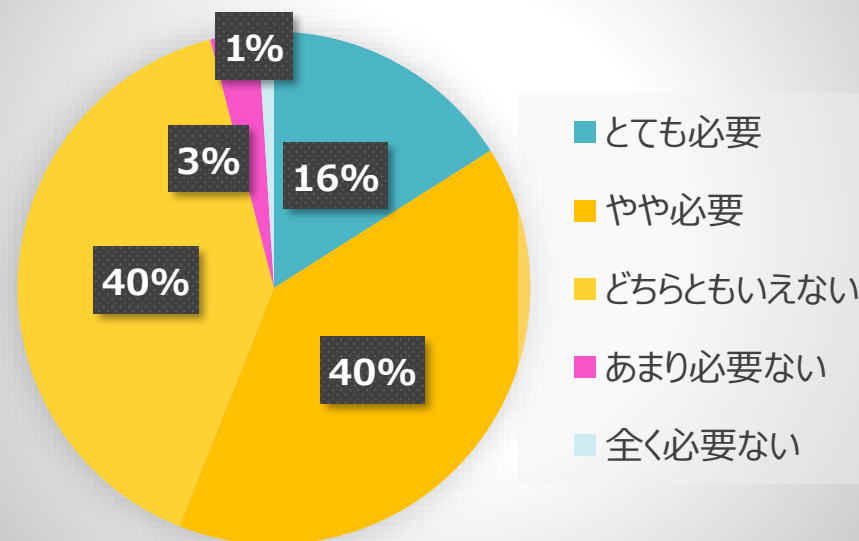
2. 実証内容と成果

令和5年6月に行ったアンケート結果について ②

教員



保護者

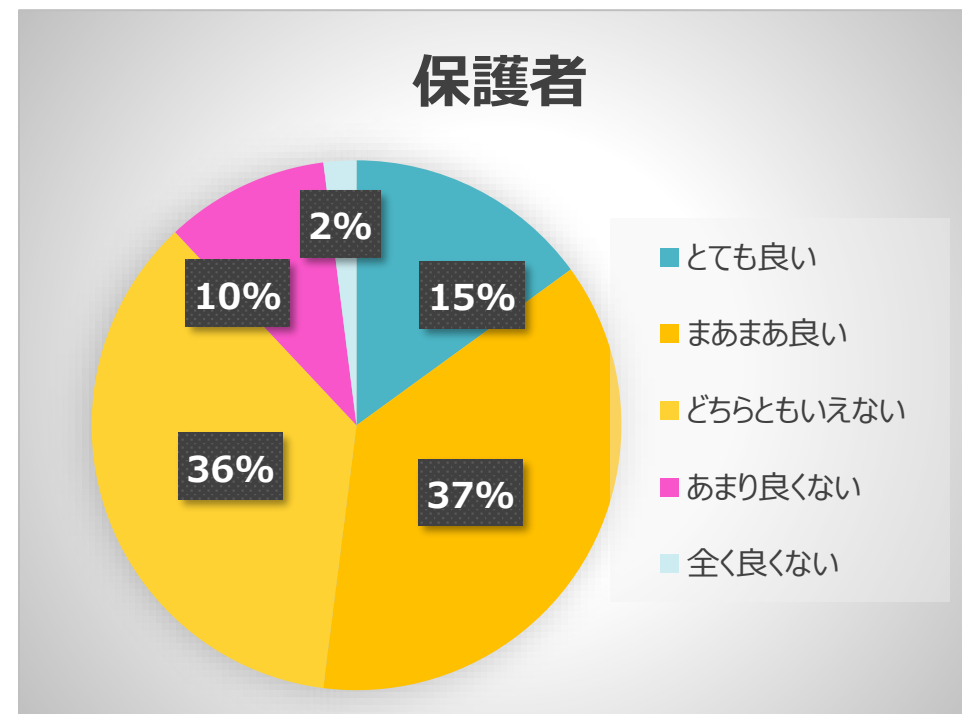
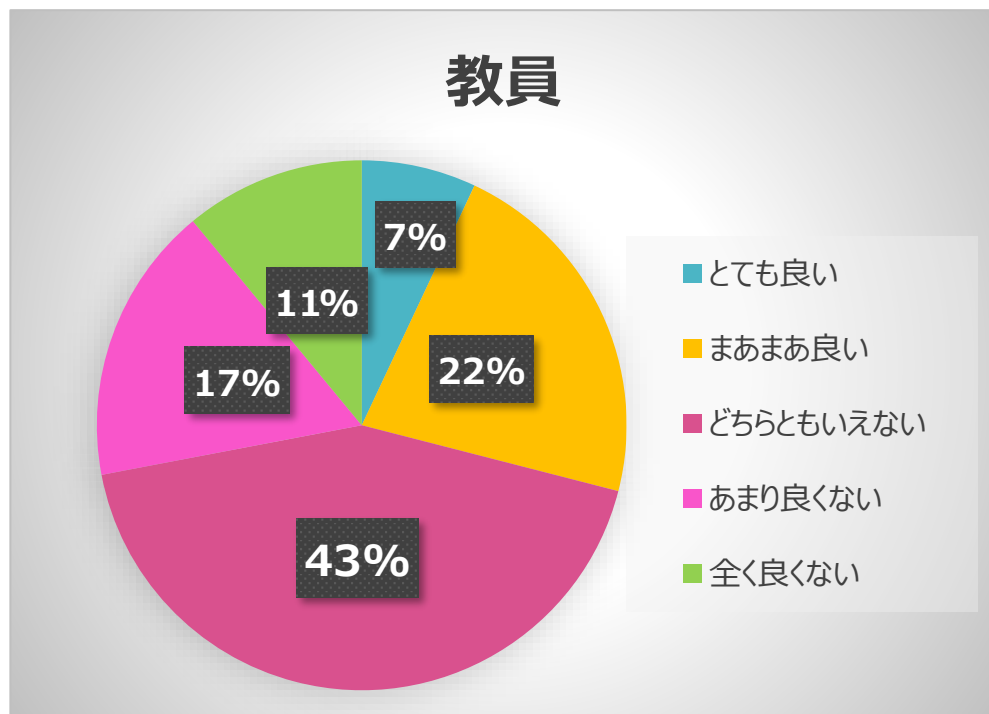


【問：部活動の地域移行は必要だと思いますか。】

- 一方、地域移行の必要性について問うと、教員は地域移行を必要と考える割合が高かったのに対し、保護者の約半数は必要性を強く感じていないことが分かった。

2. 実証内容と成果

令和5年6月に行ったアンケート結果について ③



【問：現在実施している合同部活動についてどう感じていますか。】

- 合同部活動については、開始直後ということもあり、教員の方がその運営に対し課題を感じているようであった。保護者は半数以上が肯定的な意見であり、保護者や子どもたちの中ではある程度、合同部活動での活動を受け入れることができつつあるのではと感じた。

2. 実証内容と成果

令和5年12月に教職員向けに行ったアンケート結果について ①

中学校2校：教員63名が回答

1. 文部科学省が進めようとしている中学校部活動改革についてどう思いますか。

(複数回答可)

- ▶ 国の施策にもとづき積極的に進めなければならない 28
- ▶ 以前より理解が深まった 29
- ▶ 生徒の活動のために必要 6
- ▶ 理解ができない 0



12月に行った教員向けアンケートでは、年度当初に比べ、理解が深まったと答えた教員が29名(約46%)いた。これには、市部活動統括コーディネーターが日々部活動の様子について視察・助言したり、職員会等で聞き取りや説明会を複数回催したことによるものと思われる。

2. 実証内容と成果

令和5年12月に教職員向けに行ったアンケート結果について ②

中学校2校：教員63名が回答

教員の年度当初の声


教員間の共通理解ができていないように感じる。

大会に備えて、東西中学校で別々の練習も必要。

怪我等、緊急時の対応は？

雨天の移動など、安全の確保が不安

自転車置き場の不足



2.今年度実施している合同部活動についてどう感じていますか。(複数回答可)

- ▶ 両校顧問が協力し、指導できている 15
- ▶ 以前よりスムーズな活動ができている 9
- ▶ 生徒たちが仲良く活動できている 6
- ▶ 公務時間確保のため両校顧問が協力できるようになった 4
- ▶ 課題がまだまだある 36

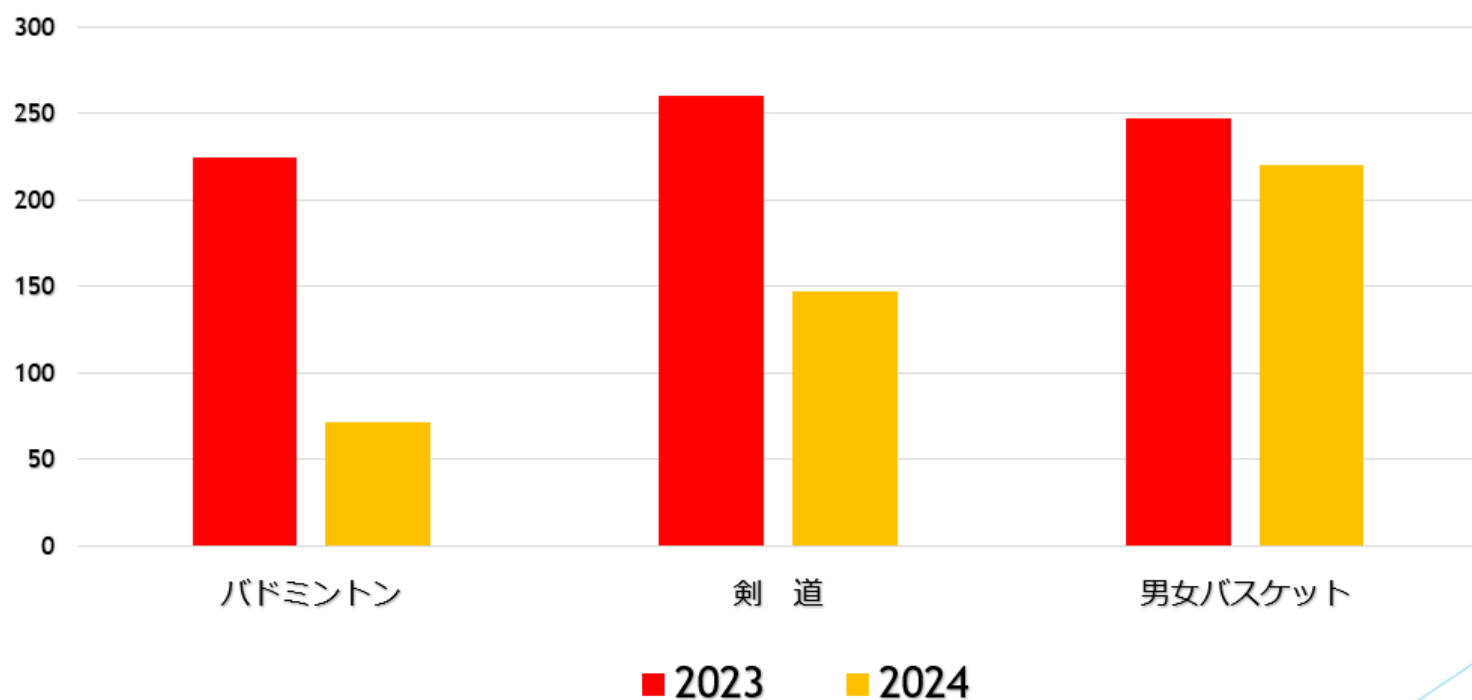
年度当初、市統括コーディネーターのもとには、教員から合同部活動に関する様々な不安の声が届いていたが、12月に行ったアンケートでは、それが少しずつ解決・払拭されている様子が見えてきた。

しかし、まだまだ山積している課題を、解決しながら取り組む必要がある。

2. 実証内容と成果

合同部活度を行ったことによる成果

部活動指導時間の比較



合同部活動では、東西中学校の顧問が連携協力して管理・指導を行っている。

その結果、活動指導時間の軽減が見られた。

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【合同部活動の様子（ソフトボール部）】



【合同部活動の様子（バドミントン部）】



【合同部活動の様子（陸上競技部）】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）

中学校部活動の地域移行に向けた方針をお知らせします

部活動の地域移行とは？

中学校の部活動はこれまで学校教育の一環として、教員の専身的な支えにより行われてきました。しかし、近年では深刻な少子化による部員不足や教員の長時間労働の問題など、学校単位での活動が難しくなるケースが増加しており、今後もこの状況が進むことが懸念されています。

このことから、文部科学省は令和5年度から7年度までの3年間を部活動の「改革推進期間」と位置付け、まずは休日の部活動から段階的に地域に移行していくという目標を掲げています。

詳しくはスポーツ庁または文化庁ホームページ掲載の「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」をご覧ください。



部活動の地域移行でどうなるの？

部活動を地域へと移行することにより、少子化の中でも子どもたちが継続してスポーツや文化活動に親しむ機会を確保します。また、休日も含めた部活動指導による教員の長時間労働を改善することで、勤務時間と心にも余裕がでせ、生徒と向き合う時間が増えるという効果が期待できます。

なお、地域部活動に移行後もこれまでと同様に、部活動は体力や技術力の向上だけでなく、集団での活動を通じた人間形成の場、教育の場となるよう取り組んでいきたいと考えています。

市ではどのように取り組むの？

年々生徒数が減少していく中、東中学校と西中学校がそれぞれに地域移行を目指すよりも、合同ゲームを結成し一体として取り組むことが、組織の整備や地域部活動指導者の育成などにおいても最適であると考えています。

そこで、教育委員会と学校とで協議のうえ、令和4年度の2学期から、それぞれの部活動の実情に合わせて、まずは休日の部活動から合同練習に取り組んできました。

そして、令和5年4月からは平日も含めた合同練習を実施しており、無理のない形で地域移行を目指しているところです。



東西合同部活動 vol.2

松本さんへのアンケート内容
①自己紹介 ②仕事内容 ③普通寺市を他の市町と比べて ④生徒や保護者にメッセージ

- ①私は、県立高校で40年保健体育の教員を経て、今年度4月より普通寺市教育委員会で勤務しています。専門種目はバスケットボールで、40年間部活動指導に取り組みました。
- ②部活動地域移行統括コーディネーターとして勤務しています。仕事内容は、
・県教育委員会との調整
・市教育委員会と学校の調整
・部活動における課題の調整、解決 等があります。
- ③香川県内17の市町との意見交換を通じて感じることは、国の施策の地域移行に向けての一環として行っている合同部活動は他の市町から参考にされる等、進んでいると思います。
- ④両中学校の施設だけでなく市内小学校や市のスポーツ施設等の協力を得ながら合同部活動を行っています。移動等不便なこともあると思いますが、限られた施設・時間を大切にしながら両校の先生・生徒と指導員の方々と協力して取り組んでもらいたいと思います。

東西合同部活動が始まり、一年が経とうとしています。生徒たちも環境に慣れてきたのではないのでしょうか。

今回、市教委の松本さんから快諾を頂き取材を行いました。合同部活動を裏から支えてくださっている方です。

また、指導されている先生方にもコメントを頂きました。ここに紹介したいと思います。

「部活動の地域移行」を充実させるために、尽力している人々の意見を取り入れて、東西合同部活動がより改善されるように、保護者も協力していきたいと思っています。

陸上部より

陸上部は毎回の練習を東中と合同で行っています。西中学校単独で行っていた時は部員数が少なかったため、寂しく活動していた時期がありました。現在は両中学校合わせて約20名で活動することができており、少人数ではできなかった練習も可能となっています。両校の1年生はすでに同じユニフォームを着用して大会に参加しています。

学校間を超えて、和やかにコミュニケーションを取りながら、切磋琢磨しています。短距離と中長距離に分かれてパート練習をする際にはそれぞれのパートに担当の顧問が付き、今までよりも時間をかけてアドバイスを伝えることができています。



バドミントン部より

バドミントン部では、部活動指導員の前田コーチ指導の下、東西の生徒が一緒に活動しています。合同練習になったことで部員数が増えたため全員が一度にコート内での練習を行うことが難しくなりましたが、学年やレベルごとに曜日に分かれて練習を行っています。

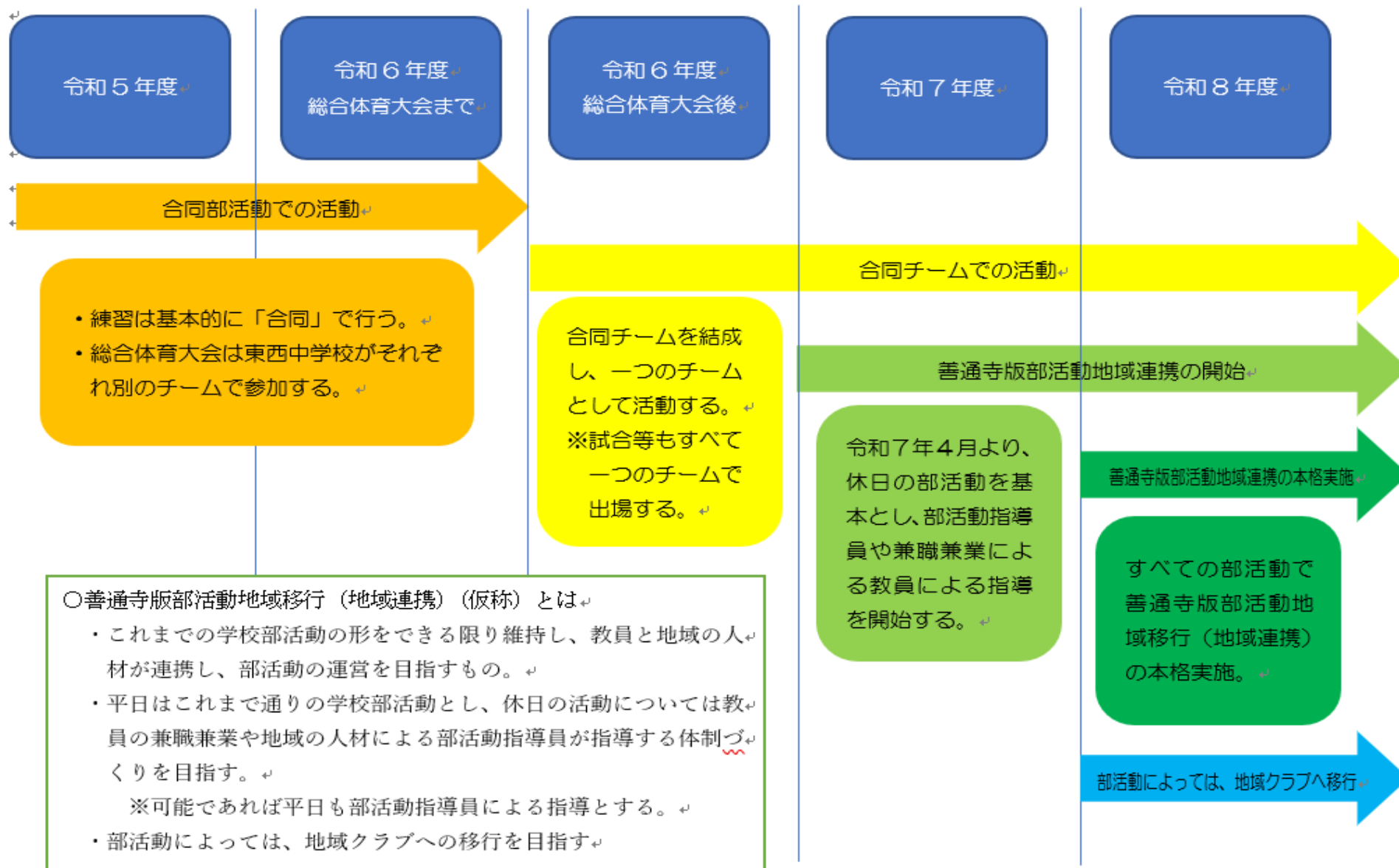
西中・東中の生徒関係なくノックをしたり、お互いに声を掛け合い励まし合ったりしながら活動もできています。また前田コーチが計画をして他校との練習試合も定期的に行っており、向上心をもって練習に取り組んでいます。



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

○善通寺市中学校部活動地域移行（地域連携）イメージ図



○善通寺版部活動地域移行（地域連携）（仮称）とは

- これまでの学校部活動の形をできる限り維持し、教員と地域の人が連携し、部活動の運営を目指すもの。
- 平日はこれまで通りの学校部活動とし、休日の活動については教員の兼職兼業や地域の人材による部活動指導員が指導する体制づくりを目指す。
- ※可能であれば平日も部活動指導員による指導とする。
- 部活動によっては、地域クラブへの移行を目指す。